

逸 13
1278
18



1278
18

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之三

東都 曲亭主人編輯



中輯第二十五

浮雲の富貴草
滯衣乃弟古鳥

却説文字撮へり外より時夏小説動され心頻に安らねば
遠く浴廬をぬくものが局へ退りうち響く眉帯小おの顔を
塗くも化粧果て結髪へ人小任りの鏡臺小對へ影とこれ二人後中
一入梳頭の婢見の智恵も此彼と三人合さる文珠鬘聚る融す後
毛の何々怯まん後髪際も運熟せ櫛の齒かろるひのあやうも
誰より黄楊の長柄櫛解ても釋ぬ謎こころは成釣毛欵片心浮言猶
の落者ぬ腋小湛く鬘水も浅くへ汲まら虚言欵實更らりせふその

月... 編卷之三

降らまじ。その恥をりも雪んとく吾侪小舊怨を棄て厄を告仇と告
 言の報ひ小執成と憑んとその所為さるべ。さうらん今更小い痛
 ち死す小まん。それとわれかもあま。うや人ま告られとも。彼鶴東二が
 飽中ぞよ。吾侪を憎しとみあう。ハ吾侪も豫さう。知まら。せん。とん
 と胸ふく。心。白波立騒ぐ。心。鎮めても。有。鬢。女子の。智慧の
 海。深。死。伎。何。を。浅。さ。小。解。得。謎。を。枉。津。日。の。神。と。意。小。知。さ。う
 け。折。し。も。あ。ま。鼓。ろ。小。女。二。人。ま。ぐ。遠。く。走。り。来。つ。文。字。撮。の。方。ま
 ま。は。う。殿。の。目。せ。あ。小。ま。ん。誘。多。人。と。い。さ。せ。文。字。撮。身。と。起。し。聊
 勞。ゆ。と。の。や。ま。く。其。を。養。ん。と。る。程。小。平。日。り。時。の。後。れ。さ。さ。そ。ま
 待。せ。ま。ひ。け。め。お。ん。理。り。小。け。る。か。さ。さ。く。桂。衣。脱。更。ま。ば。童。女。小。が。ま。つ。ろ
 ぬ。く。並。厝。さ。廊。下。屢。裳。掲。く。先。小。立。金。蓮。の。歩。唯。鴛。乃。浮。宿。の

床を離まろ。件の少女共侶小後廳へ赴け。経任へけ。も。舞。妓。歌
 媚。影。集。合。く。酒。宴。既。小。酣。え。これ。が。郢。曲。煩。む。の。艶。死。る。合。奏。の。撥。を
 揚。ま。石。積。の。飛。泉。鼓。々。と。く。山。巖。を。撲。と。疑。も。垂。袖。歌。舞。乃。燒
 ち。仙。蝠。の。扇。を。翻。せ。江。天。の。雪。霏。と。う。と。風。小。奈。さ。う。と。怪。る。況。ま
 美酒。珍。饌。の。衆。ヨ。ま。る。肉。を。丘。と。酒。成。池。と。と。彼。鹿。臺。の。象。牙
 の。箸。又。朝。歌。牛。飲。の。觴。具。足。ら。む。と。い。め。と。あ。ま。ぶ。汎。紫。の。警。井。が
 富。さ。心。を。尚。屑。と。せ。む。伊。豫。の。純。友。が。驕。ま。る。も。し。ま。飽。む。と。心。あ。る
 べ。既。小。是。花。脣。柳。腰。百。の。媚。あ。る。淫。女。小。も。後。ま。く。ま。ぬ。文。字。撮。が
 主。の。邊。小。竹。ら。よ。及。び。く。花。の。さ。ら。さ。る。深。山。樹。ら。の。で。か。さ。む。優。小。と
 誰。う。い。らん。僉。色。さ。あ。れ。が。如。く。あ。ま。ぶ。経。任。の。興。小。入。く。右。小。こ。の。怒。又。妾。を
 挾。ミ。左。小。琥珀。の。盃。を。廻。ら。く。こ。ま。傾。け。さ。又。浮。き。ま。強。飲。乱。醉。時。残

投く。文字搦が膝成枕小のこゝと酔臥し。當下文字搦の婢兒們は
密語は皆そのさるる成ゆと。或へ臥する主の裙小衣成被或もふく盃
盤を運び納る程小日さるる夏のたれ先さるるや黄昏小ありいふ。
更小間毎小許さるる燈臺小火を點し。幾枚と成先長廂の兩戸
繰出したりとさるる物と整理後愈文字搦小暇を告ぐ。各局へ退
りぬ既小しく初更の比経任の醉醒と。とんぱりの程よりう。これの熟
睡さるる膝を貸さるる文字搦の舊の俣小を渠何るをを歎
くらんとうさるる面色さるる成訝しくさるる。身を起し片頬を
拭ひ嚮ゆこれ大醉と汝が膝を枕小せしを知さるるさるる堪さるる
はるる小身を動さるる覚る成俣さるる今小さるるぬ實情さるる。さるるも
さるるさるるはるる今一滴の花の露さるる面を撲隨小敬驚さるる汝を

んはるるその眼中小涙を令さるる心の憂あるる小似たり。さるる知さるる。面を
濡せし汝が涙さるる成さるるお成さるる。余小いひさるるとやハハ。
明々地小告さるる。といわれさるるいと泣沈む声さるるせさるる鶯の諸羽濡さるる
驟雨は絞るさるる袖の隙小目を拭ひ頭を擡さるる肉小あさるる。
色さるる外小見さるる怪さるるさるる。苟且さるるぬん情と
稟と花やぶさるるあさるる人の嫉妬も大さるるさるる。寵を争ひ幸成
羨む女子とさるる然もあさるるを妾小異形仇人さるる。と告るるを経任
あさるる。汝が仇ハ何人を為小日さるるその仇を殺さん。さるる告さるるさるる。後
方をえさるる。声を細う。さるる問せさるる。今ハ匿むべくも侍さるる。妾は仇ハ
殿の軍師蘇塗鶴東二暴道ハ渠さるる。欽妾を憎さるる。玄歳ハさるる。
時夏小妾を賜へとさるる。なり。或ハ雀姫を薦さるる。せん。欲し。又頃日ハ

小決めごと。渠ホぐらんまどふんとうんを更蘭より。おれと寝ん誘
 とむるふふ成携り。駒く臥房小入。ふふり。かくその詰旦神井鬼
 六猛虎鐵盾矢藤五重連珍浦五十五六方相踏犬吠又陰行ホ
 連署。経任を諫るを。某ホ頃日ハ間諜者より。敵の虚実と
 傍窺。小光仲が陣中。時疫より。死するの甚ヨス。且その兵
 糧乏く。進退難義。小及ぶといふ。便是天の祐る所。よろしく
 襲撃。べんりの。ちよと。君公後堂小の。ま。故小士卒の。が
 小台心。戦みの。ろろ。ちや。正廳。よ。軍議の憲。と
 多。幸の甚。らん。と。書。経任。これ。を。己。云。の義。ゆる。て。軍
 議の席。小先。と。時。文字。掲。を。召。近。つけ。云。云。の義。ゆる。て。軍
 敵を襲んと欲を。然。この序。ど。く。鬼。六。ホ。と。密。譚。汝。が。仇。の。真。偽。成

探らん。か。小。早。暮。く。姑。く。樂。を。俱。小。ま。さ。心。と。放。く。
 敵。小。克。日。を。俟。必。あ。の。成。あり。ひ。そ。と。叮。嚀。小。慰。と。ば。文字。掲。涙
 さ。と。堂。と。廳。と。か。つ。と。か。か。脚。館。の。内。を。心。ま。ぬ。べ。と
 ち。の。ハ。快。樂。の。喜。見。城。彼。処。を。生。死。不。定。の。場。牡。鹿。の。角。乃
 束。の。間。も。ち。ん。側。小。は。信。と。ま。た。た。この。日。を。い。つ。消。さ。と。い。ひ
 へ。く。左。右。袖。小。顔。と。か。當。と。経。任。の。母。立。か。ぬ。鬼。六。ホ。よ。ま。く
 請。と。く。る。や。よ。出。小。り。さ。係。程。小。時。夏。ハ。嚮。小。文字。掲。を。謀。ん。と。く
 外。か。々。驚。せ。し。その。折。小。ら。あ。う。彼。九。尾。の。狐。奴。が。處。く。浴。果。ん
 胃。安。く。ぬ。故。ら。へ。渠。ハ。素。より。その。性。恰。惻。と。く。が。意。を。釋。ご。う
 ん。や。釋。ハ。か。る。を。修。羅。殿。小。鶴。東。二。が。る。成。い。ん。然。ら。ば。謀。行。ご。う
 と。合。咲。く。又。その。次。の。日。を。ま。ら。よ。この。朝。も。文字。掲。ハ。第一。番。小。浴。の。童

女声高く。浄湯を呼ぶ程。小時夏の心と答へ湯を溢るまで
汲みたる。笈を文字搦えたる。

篝火のそれ若し鴉の縄も最上の川小うけとて。と再三とび
口遊。さふぬさふぬと浴廬を出る。時夏の風雅小疎う。歌をよ
知るのさふぬと今文字搦が詠じたる。二十一字を致す。そのさ
るる謎をさや鴉東二がる。と解る。一や外さ。これ小知
まを歌ありん。さうらん。さ速事を行ふ。一や。めは彼暴道の
智あるの。この這奴小さ。とあふ禍還り。さ。さ。及ん。と。さ
かや。さ。さ。その便を俟む。経任。軍議。請れ。内房。さ
在。さ。さ。婢兒。の。さ。且。暇。さ。さ。この故
け。五。人。さ。さ。浴。隨。小。時。夏。が。火。焚。の。後。も。平。日。の。さ。

さや果。この時を。虚小過。何の日。本意。遂。さ。さ。
心。さ。準備。の。一。刀。服。挟。庭。掃。の。小。僕。小。紛。庭。門。の。偷。内。房
の。光。景。を。窺。ふ。この。四。下。へ。他。木。を。さ。目。は。限。幾。百。株。乃
牡丹園。ゆ。さ。この。花。さ。文字搦。が。さ。さ。さ。
と。さ。さ。面。を。果。さ。足を。偷。れ。項。を。伸。内。房。の。さ。
さ。さ。と。音。も。さ。時。へ。下。晡。さ。夕。陽。小。色。を。さ。
紅。さ。白。あり。薄。あり。濃。あり。各。も。さ。さ。さ。さ。折
さ。さ。頭。さ。さ。見。さ。牡丹。小。狂。小。蛟。蝶。の。さ。さ。
さ。心。も。鬢。も。さ。著。さ。渠。り。さ。さ。今。宵。戸。小。潜
さ。便。も。さ。と。葉。さ。恋。の。寝。又。宵。小。合。さ。さ。さ。
折。さ。文字搦。の。稀。さ。非。番。さ。さ。寂。く。夏。の。日。消。さ。慰。め。さ。さ。

漫小端居成さるる顔郁々牡丹花の風のやみく薫りまらぬと興
 あらまともあふらん側小竹の童女をよんたりと羊小一とびさく花の一日も
 人小んをさむらひいとをわあさくあらんまらん香を来し人をはり草木
 非惜えとのめとも廿日の盛へ限りあり夕の雨小衰ぬ間は一枝折る床こ
 ろあめん誘とく度下駄さるさうり鬚を扇とち披く花のわら小近つ
 程小後れて一人後ひまら童女を招れし珠さう頃のるなまは花
 鉄をわささる欬をささくいのめく散さで花を折らる死とくり来
 よといそがる童女のころる果てそが俣踵を旋し局を投て走
 けり文字掲へいつまて小立在へくとあうね花小引る花さる九折
 たる花壇の下を此う彼うとち遠う花城観る花色も香も浮る雲の
 富貴艸無常の風ふ今を散る命果敢るれさめとら思ひかけさる

背より時夏へた寄近つる声をもろけど閃を双の光のろ共小肩尖
 丁と砍著れば叫苦と魂消る声立させと畳うけく打大刀を外し
 わらこち身を輾せら裳蹴を下襲の白綾帯の端之黒髪交解て
 奈る大叫喚鮮血溜る身を起しつと人と倭儻く足も引せびあひせ
 うらう二の大刀小雲時堪が仰さる小倒る軀小乗一からて刺苗んと
 程小頬被せし時夏がふ拭とけとつらとをさめく面をあまれば
 双の下小文字掲へ絶まんとる声をまら立達れさる刀野太郎仇へ正
 ちく暴道さるととひのみか不當事ありれ怨成隠しとあくも討り
 汝が所為どあまけるよといせを果む胸前を鞆も徹とと串けが果
 敢るぞ散る虚花の牡丹を彩る韓紅鮮血小印と足跡の朱硯と見
 えく哀れあり既りし時夏へ屢四下を忍えり懐紙を探せと双小

護容經暴を 我任道擊

猛虎

あつ直

時夏

時夏花 壇文字 撮を殺と

文字欄



深き血を拭ひ捨腰小納めと袖うち拂ひ遺るふ拭とち揚と復頼
 被ふくも造化高妙とゆふ暮小庭門よりを脱去けるかりたこの
 知も母屋を去ると百歩小あまると加以入相の比るれ暮舎鎖戸
 の音小紛れとこま成知るのまうりけり少選とく彼童女も花篋花
 鉄を携つて舊の知小牙とくこま何知ゆたえぬハ在らど是首鉄彼
 首鉄と去る程小文字搦の鮮血と塗れと花壇の下小臥れれば吐嗟
 とむると駭れ叫びも轉つ轆の母屋小近つれ頻小人成呼立ち云云と
 告ぐ婢兒們又更小駭死騒ぐと大と形を復彼小告此又相譚ひ
 或ハ園小出と文字搦が亡骸を打ち返一或ハ人を走りと経任小奔る
 されゆより経任ハ神井鬼六と賊卒夥ゆと後堂小走り牙と送恨中
 かさるれま小且癖者を穿牙鑿と當下鬼六と夥の賊卒小蕉火を照

させく隈とく園を求獵とともと程歴り一とるまをが蹟とあも必認
 ましく皆いづつふかり取むぬ経任と成候つけと僉衆のふかりあり
 やと問ハ鬼六と懐より血小染るる字紙をどうと引伸し透し刃と
 経任がやとま小うあせ君公とるこれを亦肉せ文字搦が破れり邊小
 遺る物の口これとあらま癖者が刃の濃血を拭ありとるれと
 白紙とと幽小文字の口とえとまふれふかや小ありのせ見恨とくま
 墨色薄く且鮮血小染るとこれが定ふは讀むといふは経任のぞと
 ちて件の字紙をとり揚と亦燈燭とさ翳しとんかう刃とち魚頭
 馳く賊卒亦と退と鬼六をのと間近く行とせ猛虎これを何とら
 墨色のいと薄た小知とを塗抹とま文義を知とらとるれと
 こんと諫の状ありとあれは暴道が状の草稿小疑ひなりとるれと文字

搦を殺せしめ候間むしと知るはたのこ這奴この草稿を懐紙乃同小
 入と成忘れしむ小身は著て遠く白紙とるひの刀の濃血を拭ひ
 るらん暴道奴へ才小諱と我意を建んとはる癖あり。こまゆとやの合
 まさるこの小竊小文字搦が。これ小云と告るるのゆ。さるるはたのこ
 猶どるるのあつと。さるのふさ変忽よせし故小遂は愛妾成喪り。這奴
 憎むべし。腹も。汝ハ鞍の士卒をねく。暴道が宿所小乱し入り。こく
 首撃ふことふ日。捕を逃しと。敦團々巻成捺。歯を切り。刃を
 震しと怒り。鬼六つとくち。膝拍鳴しと嘆賞し。君公乃賢
 察。寔小當と。兎憤も亦宜あり。さるあはとも。寄心の軍兵同道く
 逼る久く。柵外小在り。今兵を動し。躬方の大将を撃し。多敵小勢
 ひ成添ふ。似たり。且く愚意をのく。さる小明日。夏小假托と。暴道と詭計

よせ幕の陰小力士を伏せし。文注所も。誅し。是安然の良策あるん
 但し暴道へ思慮才幹あつ。けさるるをその。劍法。剽技も亦衆人。捷
 此の。宜捕隊の大将を擇ぶ。そが。中小矢藤。五五五六。吠又。ホハ。皆
 暴道と。又。馬。今この。三頭領を除く。ハ。時夏。小勝。の。あ。の。他。ハ。暴
 道。敵。小。足。さ。む。某。又。その。副。と。り。て。時夏。小。力。と。勅。暴。道。縦。翅
 あ。と。も。逃。走。る。を。の。願。う。時夏。が。罪。を。宥。め。捕。ふ。乃。大。將。は
 志。多。う。渠。歡。く。粉。骨。と。竭。さん。か。く。その。功。あ。る。小。彼。を。り。此。小
 換。ふ。一。個。の。頭。領。を。誅。戮。し。又。一。個。の。頭。領。を。用。る。と。是。君。臣。の。幸
 る。賢。慮。如。何。と。真。と。言。詳。小。勸。を。任。此。の。後。後。ひ。て。要。時
 怒。り。を。忍。び。つ。翌。の。捕。隊。の。分。配。を。み。鬼。六。小。任。せ。り。抑。神。也。ハ。月
 来。暴。道。と。睦。し。又。時。夏。を。見。負。也。渠。く。其。意。小。協。ハ。と。下。め

とらと反揚く。左の成掛る短刀を抜間あせせど又肉を鋒乃柄相ど
動せど鋒頭を抜る坐敷の秘術怯むを遠く。此の矢と投る。此
尖の時夏ハ股成縫まて撲地と坐る。暴道得る。と刀を引抜る。身を
進む後より。走り蒐る鬼六が短鉾小膳申れ。小膳を突立。引禁え
怒る声をより激し。ま時夏は賣れたん。修羅殿竟小膳を。い
忠臣を殺し。多この柵を。有えやと。敦圍間。小時夏を。股立。立
鋒頭成抜捨。刀を杖。小身を起し。足を引。暴道が背の。より進
し。ま。る。や。首。と。ち。落。ぬ。當。下。經。任。ハ。屏。風。の。後。より。遠。り。遠。り。あ。く。
鬼六を譽。時夏が罪を赦し。金瘡保養の暇をと。せ。猶も怒。小膳
が。けん。暴。道。が。首。級。と。蹂。躪。て。多。の。隨。小。罵。り。僅。小。憤。成。散。ま。の。り。死
せ。文字。榻。が。返。り。来。べ。た。小。あ。が。ま。鬱。と。し。樂。ま。と。これ。より。寄。は。の

陣を襲んと口ゆいどゆ。後。一日。こと。懈。り。不。題。鐵。指。矢。藤。五。重。連。ハ。
此。度。經。任。が。時。夏。を。赦。し。用。ひ。く。俄。頃。は。暴。道。成。敷。せ。し。の。成。と。ら。の。り。と。く。
あ。の。る。ん。の。暴。道。と。睦。く。ぬ。鬼。六。が。所。為。ゆ。あ。の。ん。と。猜。せ。し。ハ。經。任。が。後。憑。
し。か。ど。夏。の。難。義。及。ぬ。前。小。脱。と。ま。ん。と。尋。思。ら。後。の。謀。と。ま。ん。と。は。る。ふ。
經。任。が。こ。の。り。来。石。室。小。秘。藏。せ。る。一。卷。の。魔。書。あ。る。け。り。矢。藤。五。の。り。成。
倫。取。く。脱。ま。げ。便。を。俟。し。恒。ぬ。開。く。ぬ。石。室。あ。る。ば。秘。書。の。失。せ。し。と。知。
の。あ。る。ま。た。か。く。矢。藤。五。ハ。一。日。軍。談。の。序。を。ゆ。く。經。任。の。り。の。り。厨。川。の。柵。ハ。
當。所。の。根。城。あり。量。小。踏。犬。吠。又。が。隊。兵。成。收。て。ゆ。小。參。り。後。其。が。
第。一。の。象。子。彈。平。太。負。持。數。百。騎。小。將。と。し。今。も。不。彼。外。を。成。れ。り。彼。彈。
平。太。ハ。年。尚。少。く。勇。悍。餘。り。あ。る。由。謀。慮。あり。寄。は。の。大。將。光。仲。ハ。素。より
武。略。小。長。の。り。の。り。久。く。こ。の。柵。を。圍。ま。ち。か。う。絶。く。下。す。び。も。攻。敵。は。る。後。を

襲ん為るまじや某浅智短才も厨川小赴も弾平太小力も勤
 彼知を成らば過失あまこの浅めと真実いげは速に経任大に小
 悦び重連が遠謀が意は稱へて汝が厨川を成らばこれより
 後をけんあまも兵をうち遣し難し只その私率の夜は
 紛らば柵をわすれ柵をりて汝を助けん準備をせよとぬそが
 遍与小え矢藤五の欣然とて件の契を受納めその夜更蘭て服心
 の賊僕五七人をねり潜る後門より程小経任の幻術をりて天城
 曇る風を起し竊みこれを資し矢藤五も障る寄りの陣前を
 うち過る厨川と投く走らる夜を日小續むゆそぐましくそを彼知小
 来著し象子彈平太負持小對面とて又偽り使者と稱し更小経任が
 命を傳へく平泉の數度の戦ひよりて矢種甲曹之、ちのぬこれ小

よる當知は貯らるる軍要金二千両をばらんとく某は適与り
 と真し小演説し件の契を證據とせり彈平太の頭領たる鉄指
 矢藤五が使者よ立て主命を傳るぬりて一毫も疑はざり日矢藤五と
 留めく叮嚀小饗食心次の日三櫃の軍要金を遍与小えれ矢藤五の
 あり後卒亦は扛擔しつゝさうぬ容めく彈平太亦は辞し別は往方も
 まどむちのふけりこの後兩三日を經り平泉の石室の秘書紛失
 のる露頭し又矢藤五の厨川の柵を成らば二千金を略奪すと逐電
 せしゆゆのえいふ経任を蹉跎し馬を憾めむせんまふの此又
 誰のふとある文字撮を殺せりこの時夏と風聞をり経任はれ
 疑心生ずく又彼血は染る字紙を檢る小景茶道が迹ふ似ても孰
 覺まふ似て非なるの之只疑をよほのそまふ又文字撮は使れり童女

病臥そのの枚擧る小違あまをよのふより光仲ハ且攻撃乃残をと先
 みづろ陣中をくら巡り病を坊の薬を与へらる心成用ととも瘥るの
 纒カレ傳流るのヨるま首と並べ死ぶ稀現陣中へ療治保養小
 便か光仲を憐れ新小附後ひ兵の病臥るを五入三人の潘小復
 扶乘く郷里へ送り遣し又遠く後ひま士卒を鎮守府の城遣ら
 本復の後參會す下知けるこの故ふあ千五百騎とゆるえも僅小七百
 餘騎小あぬそが中小ま二百餘名ハ病疲々のま役中ハ立るめ只
 幸ゆ大將光仲以下佐味下河邊城戸水草の數輩ハみあ恙ふれと
 天運の踏らるる初彼此より郷士野武者小附後ひ俄頃小
 勢小あま日小兵糧を費まると亦よこれ小廣細もその意と
 を鎮守府より糧を續ぐお久柱とあ光仲廣細の連

比及小陣門不到賊徒遙小これを入兵糧を奪取らんと
 まえめと水草太郎五小謀を授け夥の兵を出し敵と遊り車と
 救小如く偽肩て逃せんと賊徒ハ兵糧を食て逃追を車と奪らて
 引入んととるそのと和殿ハ度熟る士卒十名と約しと袖識を
 擡遣乗賊兵の中小雜り小紛入りの件の藁裏小火を放り城
 櫓を焼き城門を開け亦その火光を暗號とて發ると疾風乃如
 く走ると飛鳥の如く士卒を進め柵と板んをとも賊徒謀と知
 覚し柵を破る或ハ敵と知ると彼幻術と月を掩ひ天を暗し
 和殿柵入るとを天亡と幸めて謀るがと和殿
 紛れ柵入ると賊徒小必號語あんと他の方成仲認てまか
 如く柵中入ると火を放小及むとを賊徒小

知らざる生とくえんりの一人もあらずと見九死一生の苦計に智勇全き
 のふあふればゆく行ひゆくあふし。和殿を擇用ふ武運の長短この
 舉にたゞとくえんと説示せば武詮感佩と異議不及と飲然とく
 退死。二十名の勇卒をおく潜て近郷ゆを赴え。却説その時昏る
 佐味竺内高利下河邊小三郎高吉水草太郎五目之のさうえすん
 頭さらる兵少數本陣又集會し地上ふ圓坐を敷並べ処ふ無火を
 焼し。大将の下知を俟小光仲ハ時を殺さざり子ノ端小立ち幕城
 掲せ床几を退け儲の席又着く程小衆皆る無頭を低齊これと
 敬とま光仲も亦礼を答へ衆人うち對ひ諸賢時刻と違へり
 遺る會合せらと殺ひこれ又たのめあり。かどと光仲が武運始終全
 うも星裏めり謀り如く經任怠慢の心成生し。みづから軍議を度と

せど坐小声色小耽りく讒言を信し軍師暴道を殺せし賊將矢藤五が
 徒脱するのヨミとゆひ。當小是攻撃べ死の時ありれどもゆふせん
 陣中時疫ふり死亡せしもの甚ヨカ。この故小賊をその圖小入
 と小も柵を攻る兵足る。躬方の運の短き所歎ふ。小加ゆ兵糧
 既小竭く明日の糧あり。鎮守府も亦如此る。さう何知又食を求ん
 進退なく。究りぬ定小危窮存亡の秋なり。さう且光仲ハ微賤より
 興やく。この大任を奉り且鎌倉の営中ゆく。對策の日兵糧のる。小向を
 小某對く臣ハ兵糧の續ざると成患ひとせど。只經任が首を獲るの
 一日も速あると成かひの。とヤせし。か。今國府より。兵糧運送
 遲滞とせし。甚しくハ謹う。況兵糧竭う。何方小向て軍をかへん
 餘人のとまらん。か。光仲ハ一騎とせし。今宵賊柵を攻撃く。克すハ

潔く戦死せし是則上の鎌倉殿の武命を辱めなむと云く次小廣朝臣
 の鴻恩小答んと云ふの各位のことと異え九妻あり子ありの孰か企て
 戸毎又俟ざらんや鎌倉殿への忠節も此度の役小限る小あふむか
 かりぬのぬ身の暇を取らば。性命を全うし。後の國役に立。又光仲
 ひとり捨つとも一毫も恨あり。と云ふ。高利高吉昌之。小
 竹あど声を激し。情さ。と云ふ。兼。又。家。志。妻。子。別。れ。方。と
 殺し。名。を。留。め。子。孫。の。栄。を。ぬ。ぬ。の。武。士。の。常。情。さ。吾。們。麾。下。小。後。ひ。と。
 賊を敷し。愛顧と蒙る。と云ふ。生る。も。死。さ。も。安。危。を。又。賀。殿。と
 俱。よ。せ。ま。く。欲。せ。し。小。逃。下。の。小。む。む。軍。談。難。又。臨。て。免。る。戎。兵。の。本。意
 と云ふ。今更。誰。う。亦。達。死。成。存。さ。糧。竭。さ。饑。小。臨。て。果。敢。り。死
 働。死。ぬ。る。誘。多。共。侶。小。今。宵。賊。柵。小。推。上。せ。鐵。壁。あり。と。打。破。し。

經仕が首級を獲。柵を首の。死せん。他。更。ま。い。と。辞。さ。く。答。つ。
 四下を信と見。見。せ。六。衆。皆。阿。と。嘆。唱。一。通。微妙。く。い。は。ふ。吾。們。が。願。ふ
 所。三。君。の。存。念。と。同。じ。と。云。ふ。と。諸。声。合。し。或。ハ。矢。を。折。り。天。と。拜。し。
 誓。言。を。示。し。必。死。の。覚。期。小。光。仲。さ。感。佩。し。其。の。義。烈。を。頌。贊。し。諸。賢。宰。小
 かの如く。と。云。ふ。攻。撃。と。難。く。と。云。ふ。と。血。氣。小。任。し。不。覺。小。進。む。
 謀。の。軍。を。考。へ。可。惜。命。を。損。さ。死。小。あ。む。と。云。ふ。と。聊。謀。あり。を。の。と。城。戸
 四郎ハ隊兵三十名を。既。又。近。郷。小。赴。死。し。其。の。謀。ハ。如。此。と。云。ふ。箇。様
 箇。様。と。説。示。し。か。と。水。草。太。郎。五。ハ。百。五。十。騎。を。二。隊。と。し。柵。より。い。で。あ。る
 賊。と。戦。ひ。偽。負。り。退。く。べ。又。病。後。い。ち。本。復。せ。る。二。百。餘。人。ハ。陣。中。小。田。り
 守。り。徒。土。鑼。を。鳴。り。鯨。波。を。揚。續。れ。攻。掛。る。如。く。と。云。ふ。光。仲。ハ。佐。味
 氏。と。下。河。邊。小。三。郎。と。共。小。三。百。五。十。騎。を。招。く。一。の。城。門。を。攻。撃。ん。武。詮。が

計行どく火の農成凡へ食速は騎へる。時刻も今宵四頃の時と定め
 する。三更の比に至る。士卒飽やむ。食まへり。謀合期せむ。おのく
 箸を取るとも。既今宵限り。ふしそあはれ。將とあり。士卒とあり。く
 生死存亡を俣ゆ。と過世怪し。交りまらむ。や。いづく。最期の酒を酌ん
 とく。土器せり。と。呼ま。唯と。応り。幕の内より。兩三人。籠成。搦て
 出。あり。小四方。酒杯を載。と。成り。あり。當下。光仲へ。おのれ。ま。ぶ
 毒試をせん。と。酒杯。成。ふ。取。て。口。喫。と。衆人。より。ち。對。陣。中。糧。ま。ぶ
 竭。と。い。う。め。酒。あ。る。ん。水。を。り。代。と。の。ま。佐。味。氏。へ。憚。せん。と
 い。の。け。く。盡。き。不。盡。を。二。内。受。て。うち。戴。き。又。高。吉。より。昌。之。と。次。第。よ
 巡。る。盃。の。影。も。隈。あ。さ。夕。月。夜。山。杜。鵲。お。ち。か。り。西。の。天。へ。鳴。こ。る。彼。や
 冥。土。の。友。歎。と。も。い。ん。の。躑。躑。ま。ご。ん。ひ。ど。死。天。の。山。路。へ。の。ろ。と。も。ふ。越。る。ん

の。成。と。ち。あ。く。小。死。を。究。め。る。兵。の。支。を。殊。小。憑。く。食。愾。然。と。う。ち。仰。け。い
 二。内。高。利。進。出。現。か。む。と。の。酒。宴。小。殺。ま。る。ん。送。憾。一。各。位。雲。時。等
 へ。高。利。殺。進。せん。何。せ。と。と。小。頭。を。傾。け。扇。を。膝。ふ。り。上。る。この。酒。へ。素
 湯。と。泉。の。水。あ。る。と。酌。と。も。竭。御。方。の。武。運。名。の。あ。る。平。泉。を。一。吞。よ
 喫。ぞ。め。と。と。声。張。揚。と。謡。ひ。と。高。吉。へ。扇。を。披。る。と。弱。の。袖。と。舞。い
 舞。々。與。を。添。ふ。と。衆。皆。冷。也。と。う。ち。囉。一。光。仲。も。亦。笑。片。向。と。佐。味。が。秀
 句。を。答。へ。り。ける。説。話。分。兩。頭。い。も。亦。憂。と。洩。ぬ。力。の。あ。ま。と。ひ。と。驚。死
 の。中。へ。入。籠。姫。の。う。る。と。今。歳。仲。春。圓。山。ゆ。と。田。を。脱。れ。出。と。と。旅。乃
 杖。と。も。棄。物。と。も。憑。く。と。弱。竹。と。鳩。江。ハ。た。途。と。驛。と。と。く。日。の。賊
 徒。小。生。拘。と。経。任。が。目。前。へ。牽。居。た。れ。その。日。と。殊。と。渠。が。恋。風。小。齋。ぬ
 松。と。操。の。命。強。顔。く。謹。責。ら。と。く。い。く。そ。む。く。その。辱。め。を。も。信。夫。の。翁。が。締



かひとたの半のまつのあひい
 とわれともこら袖をかしく



みちおくの
 りの川の
 河水も酒と
 うるんよま
 えひ小けり

下河辺高古

佐味世内

一箇と洗衣を乾[○]き[○]と[○]半[○]幾[○]條[○]秋[○]て[○]来[○]つ[○]筐[○]姫[○]小[○]庭[○]与[○]て[○]い[○]る[○]和[○]女[○]郎[○]が
 白く燭[○]中[○]ち[○]る[○]その[○]足[○]の[○]力[○]の[○]く[○]り[○]で[○]る[○]水[○]際[○]下[○]り[○]立[○]て[○]毎[○]日[○]小[○]野[○]の[○]舊[○]
 衣[○]を[○]洗[○]ひ[○]ぬ[○]ぐ[○]血[○]盆[○]地[○]獄[○]の[○]呵[○]責[○]を[○]受[○]る[○]辛[○]死[○]教[○]を[○]受[○]る[○]人[○]より[○]速[○]く[○]
 修羅[○]殿[○]の[○]御[○]意[○]は[○]後[○]の[○]紫[○]雲[○]の[○]夜[○]衣[○]小[○]包[○]ま[○]と[○]紅[○]蓮[○]の[○]蒲[○]團[○]小[○]衆[○]せ[○]
 ら[○]安[○]樂[○]國[○]へ[○]往[○]生[○]せ[○]よう[○]人[○]の[○]心[○]を[○]似[○]る[○]の[○]ゆ[○]や[○]が[○]眼[○]は[○]こ[○]ん[○]と[○]美[○]人[○]を[○]見[○]る[○]
 人[○]の[○]美[○]人[○]を[○]見[○]る[○]を[○]修[○]羅[○]殿[○]の[○]か[○]く[○]で[○]小[○]執[○]念[○]深[○]懲[○]し[○]の[○]ゆ[○]や[○]の[○]吾[○]共[○]も[○]
 亦[○]過[○]世[○]し[○]る[○]殿[○]と[○]呼[○]ぶ[○]徳[○]あり[○]と[○]和[○]女[○]郎[○]が[○]心[○]は[○]後[○]の[○]と[○]出[○]る[○]中[○]に[○]死[○]と[○]
 時[○]の[○]厄[○]の[○]良[○]人[○]の[○]身[○]代[○]賣[○]れ[○]の[○]も[○]あ[○]は[○]世[○]の[○]ふ[○]や[○]も[○]
 義[○]邦[○]の[○]為[○]と[○]な[○]ら[○]修[○]羅[○]殿[○]は[○]靡[○]れ[○]た[○]ら[○]せ[○]ら[○]の[○]旋[○]嚴[○]の[○]二[○]
 立[○]り[○]の[○]ゆ[○]や[○]の[○]も[○]あ[○]は[○]の[○]噫[○]笑[○]止[○]や[○]と[○]散[○]敷[○]の[○]二[○]
 の[○]城[○]門[○]の[○]か[○]え[○]退[○]り[○]け[○]と[○]これ[○]より[○]後[○]も[○]朝[○]夕[○]の[○]糧[○]を[○]送[○]り[○]与[○]ると[○]倘[○]憐[○]ら[○]か

一箇と洗衣を乾[○]き[○]と[○]半[○]幾[○]條[○]秋[○]て[○]来[○]つ[○]筐[○]姫[○]小[○]庭[○]与[○]て[○]い[○]る[○]和[○]女[○]郎[○]が
 白く燭[○]中[○]ち[○]る[○]その[○]足[○]の[○]力[○]の[○]く[○]り[○]で[○]る[○]水[○]際[○]下[○]り[○]立[○]て[○]毎[○]日[○]小[○]野[○]の[○]舊[○]
 衣[○]を[○]洗[○]ひ[○]ぬ[○]ぐ[○]血[○]盆[○]地[○]獄[○]の[○]呵[○]責[○]を[○]受[○]る[○]辛[○]死[○]教[○]を[○]受[○]る[○]人[○]より[○]速[○]く[○]
 修羅[○]殿[○]の[○]御[○]意[○]は[○]後[○]の[○]紫[○]雲[○]の[○]夜[○]衣[○]小[○]包[○]ま[○]と[○]紅[○]蓮[○]の[○]蒲[○]團[○]小[○]衆[○]せ[○]
 ら[○]安[○]樂[○]國[○]へ[○]往[○]生[○]せ[○]よう[○]人[○]の[○]心[○]を[○]似[○]る[○]の[○]ゆ[○]や[○]が[○]眼[○]は[○]こ[○]ん[○]と[○]美[○]人[○]を[○]見[○]る[○]
 人[○]の[○]美[○]人[○]を[○]見[○]る[○]を[○]修[○]羅[○]殿[○]の[○]か[○]く[○]で[○]小[○]執[○]念[○]深[○]懲[○]し[○]の[○]ゆ[○]や[○]の[○]吾[○]共[○]も[○]
 亦[○]過[○]世[○]し[○]る[○]殿[○]と[○]呼[○]ぶ[○]徳[○]あり[○]と[○]和[○]女[○]郎[○]が[○]心[○]は[○]後[○]の[○]と[○]出[○]る[○]中[○]に[○]死[○]と[○]
 時[○]の[○]厄[○]の[○]良[○]人[○]の[○]身[○]代[○]賣[○]れ[○]の[○]も[○]あ[○]は[○]世[○]の[○]ふ[○]や[○]も[○]
 義[○]邦[○]の[○]為[○]と[○]な[○]ら[○]修[○]羅[○]殿[○]は[○]靡[○]れ[○]た[○]ら[○]せ[○]ら[○]の[○]旋[○]嚴[○]の[○]二[○]
 立[○]り[○]の[○]ゆ[○]や[○]の[○]も[○]あ[○]は[○]の[○]噫[○]笑[○]止[○]や[○]と[○]散[○]敷[○]の[○]二[○]
 の[○]城[○]門[○]の[○]か[○]え[○]退[○]り[○]け[○]と[○]これ[○]より[○]後[○]も[○]朝[○]夕[○]の[○]糧[○]を[○]送[○]り[○]与[○]ると[○]倘[○]憐[○]ら[○]か

謹んとして賊卒亦が日小三遍捧衝鳴々々来つるのを昏へ終日松吹風と
夜へ通霄堰落を彼塹港の水音より外小言訪ふのを憐むべし
筐姫も熟ぬる業小栲衾を衣るが賊兵どもが垢を血を被る
せし衣いもも解はやく鹽小載せし水際まで推りて遺るごとく苦
死小下り立んとく踏かふる登崩と苔深く岸滑小水高し落る軀を
論む身を投めろ後ろるる中浅瀬に子く細脛を濡せぬ寒は春乃
水もつと揚る片足はこれ似たりか白鷺の友は負ちるも形はるく
細布の一衣浸し揮濯けむも堪え入らる岸の薄氷揺碎き
さら浪らる水の文をこら小膽絶瞑眩と人氣はあや大江山くその
鬼は捉えたる風流少女が解渡ひかくわしけんと身はる小のわりく
と泣く涙の川もあやど濕るらる裳裾は袖を濡とく哀れ

まよりの日ぬる衣の怨家の垢は洗へともが月の恥と良人の恥雪
よもわす栲ぬる荒足も皸列を磨ぬ玉乃顔も塵埃染た衣
雪の膚解と乱る黒髪のもが艱苦もが良人の為とあふ忍んと
多ども竟も疲勞果と十と定め衣の數足は後バ忽地短任が便
室の小庭小牽らせられて憂とる豫る音小ゆる良人の呵責と目よ
見せし人の憂ひを牙の樂と小笑ひ戯る怨の數も復す力も縲
縛は勝ぬ良人の命のいと惜さ小勸解と翌より又浣ふ水温とく春
の日も花ざらる日數経と夏も来にけを香久山の少るあやぬ
水際の松も衣乾らむと不樂積り瘡小病著の重枕も許
さるバよの俣めく玉の緒の絶と生憎も絶ぬ歎のあやも
志く時を良は卯茨開く四月十三日小ちる痛く死かきふ

翠帳の下小養は深窓の裏小人と成り良家名族の息女なれ
 今ハ賊徒柵中の院婦となり果て判舎ふむを置たり夜を
 殊更小物寂しく夜行の撃柝を遠く彼此又夢るのそ又松風蘿月
 の外耳は觸目小遊るのあり寝らぬも小終夜佛乃御名を
 唱へ過去少く實父母養父母親族家臣ホまてく戦死せしめの
 菩提を吊ひ現世少く良人の天運循環く會替の恥を雪先絶
 たる家と興一廢する受領を續せ多人とぞ禱けり夜より燈火と
 置くは許さば後を暗室小坐しく曉を俟の冬の日小あり
 枕の辺は雪を束ねて明を取るもあど夏はなやあふれど
 螢の影をくく窓小光を引小由あり今宵を満天は雲とるど
 仰上は真如の月高く昇り清光白屋の檐を照し見之とば

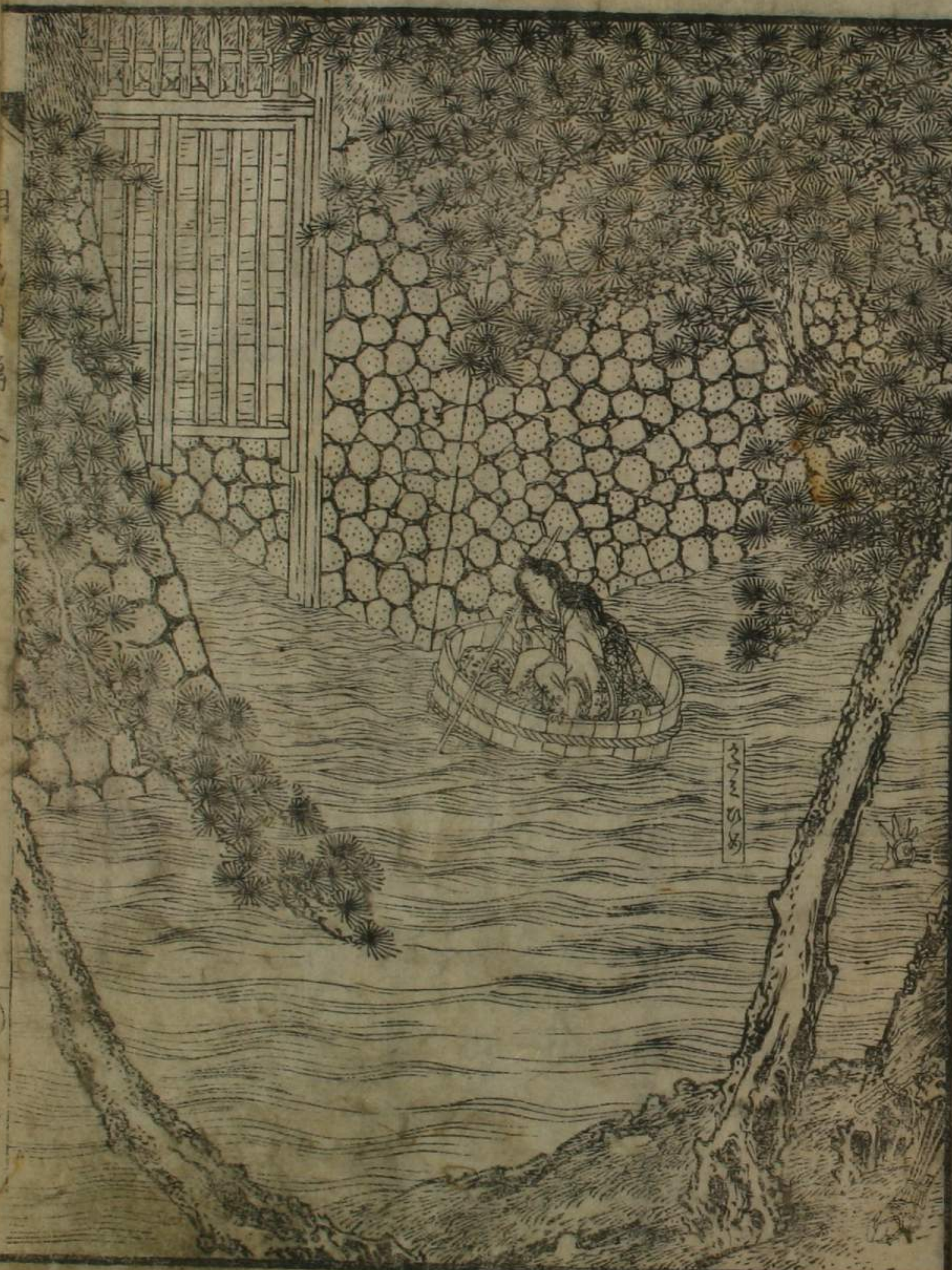
壁は添く共小おぼろふ水路近う弱葭の風小
 戦ぐ欵鶴鶴の囀々け何の故小夜は寝らぬ青山遙小く
 松声の枕は響く牧杜鵑の光惚ける誰が為小屢價を耳小
 竹くりの悲を増ざると目小るの腸を断ざらる怨あつを
 責て過去来とるひは讐敵経任が残忍め且性急るも
 冠者を亡ひをうる吾侪を随せんとの鴻許の所多るべた
 屠所の羊とさるをなぐるさ不めん命恙な不幸の中乃
 吾侪亦彼が徴を容ざる小氣を靡くを俟んとる文字掲とえん
 存命は亦是不思議の幸あらん欵あはれとも頃日糧と置り
 来る賊卒ホが不問語を竹く小徑任が愛妾文字掲を既狂死

一々けき経任のく吾侪は逼りて彼愛妾小換んとす。そのる遠くは
 とひのるあり。さか吾侪が死ん日も又遠くはと覚り経任遠小本
 意を遂まら怒りて冠者を殺せしむ。身を潔くして死ん
 とも共侶不良人を亡ふの憾あり。ともかくて死ぬる才乃はは
 爰小若しめらましく人ありぬ。経任が心の鬼の迎を俟べたり。や水層と
 ありまきもあの塹港より脱れしむ。遂小寄るの陣は幾死この柵中の
 虚実を告ぐ守まねこのほろもさう。御方の兵を導きつ。そのを
 塹の埋草ともさるふ怨敵亡ぶべく。冠者を救ふともありん。過世福
 ろく生れ来く女の子乃體を稟とま。もと正しく源氏の將帥九
 郎判官の女小しそあり。父の矢嶋の戦ひ小船八艘が端より端へ飛
 遷りまのし。女子も水小入るめ。あま荒磯の蟹もさ。後波乃

底ゆく樹を去る。念凝ぶ火も入り。水をも涉さぐ。やへ巴ん。父
 判官の信どまの。山城鞍馬の毘沙門天近く。膽澤大明神月来
 念どなる。圓通寺の観音薩埵。今宵は匡力を勦く。彼塹輕く
 渡させま。と霎時禱す。外をうち仰見。月の影りて推さる。が
 夜も尚二更の比あり。賊徒要害を憑きて。夜行る力もさる。稀
 稀あり。名ひ起日ぞ吉日なる。空小今宵と過さん。やと志成。励し
 外面小立歩く。水際へ赴んと。又さる。さあ少ても何と。く
 廣れ塹を。こころに水戲とやん。を去るぬ。月の不覚小進。さる。諺小鶴の
 真似ま。といふ鳥さる。要しそあり。めと見えり。西三歩立戻りて。門
 傍は倚る。洗濯盥を引起し。さる。今宵の渡舟論ま。沈め。亡
 魂の夢小見せ。くも寄る。小告く。終め。雙言を亡さん。さる。左右の

澄くさるやぐ吹鳴せむ斬を距るに遙りて叢立る樹蔭より一個の
 行客走り来り匡姫敬馬死く遠く見久むその人の手割計のうた
 三四なるべし色浅黒く髯青々花田の袴の夾衣を精悍しく裳折
 寒衣の腰より一口の短刀を跨ぎ足は湿涼の脚絆を穿たりその人骨ハ
 田舎備くこと彼おのづから甲乙あり件の武士ハ立形が彼行客と扱
 けりる要時耳語れしうろ成るうろ匡姫ふらち對ひ婦人かろむ
 驚くべうむ今ハ何名と告ぐむと遠くむむ知るん今宵ハ
 時小月明く潜ぶ小便しころうふよすめく問答は丸めく危しお小が
 影を隠せんむこの男を俱く多くとしそせば行客ハその答とむ
 姫のく成取ア背小引被け足は信く走去けり件の武士ハ木かろ
 わりて要時そのこを目送るる再び岸邊に立ち上るる水は漂ふ大盃の鈎

索投る引りせむ葛石小繫糸は苗腰より扇を抜出し斬士の短長短き
 向の岸の高低死成すろの中小端より横さるふ運歩く程小暗る
 天も定めまらぬ叢雲忽地月を包く朦朧とるるよけり浩如く袖附
 さう鎧のうろ成義小掩し立よ隠し紫金作の太刀を佩細鎌の南蛮
 肱甲小筋金入る臙甲せし亦是一個の潜行武者彼もこの壻小をみて
 遙小右のうろ来りる件の武士ハ知らむやありえん行逢の間よひ
 忽地礮と撞當む互小退く西三歩あるる驕る信と刃く
 序ころと吐れり左のうろ立戻まら又前面より一個の武者打拵似
 ころ菅蓑の腰より漏るる鎧の威毛輪鐵打る鋒巻を竹子笠小隠し
 てもる月頭く焼刀の金具さかろ小耀れり岸の螢秋雲きまの星の影
 致と疑るる件の武士もこも懼るる序ころと吐れり右へ又せが



脱 賊 篋
 舟 柵 姫
 戎 夜

草夷四續卷之

九八

あまの武者左へ久せば。あまの武者巨臂をむくた詰しむる。二人は
身を固め疾視あめて。諸笠小隔くんせぬ。面影をうんんとてかく。敵
敵の腕を一度は振おとす。直つけ入る。春法の極秘彼方も挽ぬ。相撲
の推ふ小突へ拂ひ打ぐ。沈む孰間さき一上二下。二人を敵む小力士の働た
拳乱とて挑む。三人齊一諸笠小隔くんせぬ。引落せぬ。叢も此離れく
うた拂ふ雲。又霽く洩る月の影。小面をうんんとせし。義秀ぬ小をうんんとせし。
と向み武者能心瓜ゆとんく。然ゆふ和殿を三二廣光何この武士が朝夷
ぬ。飲ままろくとむる。初對面なる。嗣忠も豫くゆく。各も一舊識
不思議の値偶と再會。小感嘆呼吸を合せけり。

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之二 終

